

## I. 研究主題

豊かな感性に ときめく心を

～互いに学び合い、高め合い、表現する力を育む指導のあり方～

## II. 研究目的

### 1. 研究経過

2017年度は、研究の2年次であり「子どもが主体的に表現できる授業のあり方」というテーマのもと研究をし、児童生徒が主体的に表現できる授業実践や研修会を積み重ねてきた。

小学校では、音楽科における「子どもが主体的に表現できる授業のあり方」についての実践力を高めるために、講師野村優子氏による授業公開や実技指導を受けることで児童の実態に応じた指導力を高めてきた。「教える教師自身が表現豊かになること、豊かな発想をもつことが大切である。」「子どもたちにどういった力をつけさせるのか、曲をとおして何を教えるのかを明確にすることで、子どもたちの心を豊かにしていくことができる。」等のたくさんの学びがあり、充実した実技研修会であった。また、第二次研究協議会では、中心サークル（広教研）による鑑賞の授業発表が行われた。子どもたちに想像を膨らませながら身体全体で生き生きと表現させたり、共通事項をとらえさせる場面を設定したりする等、学びの多い授業実践であった。各市町村のレポート発表・曲紹介では、どの発表もすぐに指導に取り入れることのできる内容であり、有意義な学習会が繰り返され、参加者からは好評であった。

中学校では、音楽科における「子どもが主体的に表現できる授業のあり方」についての実践力を高めるために、講師杉江光氏による授業公開や実技指導を受けることで生徒の実態に応じた指導力を高めてきた。曲にかかわる歴史小説家の随筆を生徒に朗読させ、人として大切なことをつかませながら、合唱をつくりあげる過程が見事であった。「音楽の原点は心から合唱を楽しむこと」等、新たな指導方法と音楽の原点に立ち返ることのできる貴重な実技研修会であった。また、第二次研究協議会では、中心サークル（広教研）による歌唱の授業発表が行われた。生徒の発達段階に応じた表現方法にせまる内容であり、生徒たちに強弱を考えさせたり、歌の意味を考えさせたりしながらすすめる授業は大変貴重な内容であった。学習会では、合唱指導についてレポート発表があり、合唱指導の工夫や課題について交流した。また、合唱コンクールの審査について交流できたことも有意義であった。

その他、実技交流会（合唱交流会）も小学校低学年向け、中学年向けの3曲を行い、小中合同の合唱をしながら学び合うことができた。

小中学校合同の理論研修会では、講師高倉弘光氏による「今後の音楽教育のあり方」についての授業公開やワークショップが行われた。新学習指導要領がどのようになるのかについても話し合った。「おもしろい」「たのしい」授業の中にたしかに学びを入れていく授業づくりをしていかななくてはならないこと、音楽を通して豊かな情操が培われていくということ等、2018年度につながる研修会であった。

## 2. 主題設定の理由

これまで「共通事項」を意識した指導法の工夫について研究をしてきた。小学校では、リズムや鑑賞を中心に研究を深めてきた。中学校では、鑑賞・和楽器・創作・伝統的歌唱の研究を深めてきた。共通事項の中から「リズム、音の重なり、強弱」に焦点をあて、歌唱・器楽・創作の領域をどう指導していくかの研究をさらに深めてきた。

豊かな表現力を身につけさせるためには、「共通事項」を計画的に授業に盛り込んでいくことが大切である。また、これまでに身につけた音楽を深く聴く力（知識・技能）を活用し、自分のイメージ（感性）を働かせ生活や社会と関連づけながら自分の考えをしっかりともち、主体的・対話的・協働的な学びができるような授業を実現していかなければならない。音楽を学ぶ意義を自然と感じとらせるように教師自身が題材に込められた思いや願い、その音楽の背景となる文化や歴史などをつかむことで、子どもたちが豊かな感性と表現する力を育むことができるのではないかと考え、この主題を設定した。

## 3. 研究仮説

子どもたちは、とても豊かな感性を持っている。そして、無限の可能性がある。一定の枠に入れられたり、評価されたり比べられたりするならば、だれもが潜在的に持っているはずの感性、「ときめき力」を失ってしまうのではないだろうか。

今年度（2018年度）の研究は、音楽教育を通して「ときめき力」を「生きる力」につなげ、学びの質を高め、充実した音楽活動にしていきたいと考えている。仲間とともに交流しあい、「からだを通して」感じ、理解し、創造的に生み出すことで、さらに児童生徒の表現力が豊かになっていく。このような授業実践を展開し、積み重ねていくことにした。感じ方の異なる一人ひとりが心を合わせて、一つの音楽表現をつくることを地道に育てていく。そのような実践によって、子どもと教師の「ときめき力」がともに高まり、児童生徒の豊かな感性や表現する心を育てていくことができるのではないかと考えた。

## Ⅲ. 研究内容

**小学校…互いに学び合い、高め合い、表現する力を育むための指導のあり方の研究を行う。**

○第二次研究協議会での中心サークルによる授業を通して、研究主題に迫った授業を作り、指導方法を深める。今年度（2018年度）は、音楽づくりを取り入れた授業。

・協働的な学び　　・対話的で深い学び　　・言語活動の学びの充実

○6月に音楽づくりの講師を招き、実技研修会を行う。

**中学校…互いに学び合い、高め合い、表現する力を育むための指導のあり方の研究を行う。**

○第二次研究協議会での中心サークルによる授業を通して、研究主題に迫った授業を作り、指導方法を深める。今年度（2018年度）は、創作を取り入れた授業。

・協働的な学び　　・対話的で深い学び　　・言語活動の学びの充実

・生活や社会における音楽の意味や役割の学び合い

○7月に創作の講師を招き、実技研修会を行う。

○11月頃に講師を招き、小中合同の理論研修会を行い、研究を深めていく。

## IV. 研究方法

### 1. 研修会

- (1) 今年度（2018年度）の研究のすすめ方に基づいた実技指導研修会を開催する。
- (2) 課題を明確にし、指導の手がかりを得るために、理論指導研修会を開催する。  
(開催場所・内容は、次年度の第二次研究協議会開催市町村部会を優先する。)
- (3) 今次研究に有効な教材や指導事例の紹介、部会員の声や問題提起を盛り込むなど、より開かれた部会誌『石音』の発行に努め、共通理解をする。

### 2. 個人、市町村部会

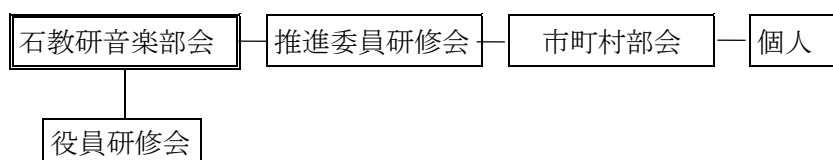
- (1) 研究主題解明に向けて、研究組織・研究の進め方について考えて確認しあい、年間構想を立案する。
- (2) 学習会や実技研、授業研などを位置づけて、研究主題の実技・検証を行う。また、その資料は、全会員に還流する。
- (3) 共同研究の利点を生かし、実践検証した研究の成果を市町村ごとに一つのレポートとしてまとめ、第二次研究協議会で発表し、全体で交流し検証する。市町村研究推進委員は、第二次研究協議会に向けて、部会員一人一人の役割を明確にし、部会員が研究意欲を高め、推進できるよう連絡を密に行う。

### 3. 専門部会第二次研究協議会

- (1) 第二次研究協議会開催市町村部会においては、公開授業、学習会、課題解明に結びつく研修の場を事務局と連携を取りながら設定する。そのために、開催市町村部会が中心になって、研究グループを組織し、共同研究を進める。各推進委員も公開授業等の共同研究者として、推進委員会の時に指導案を検討する。
- (2) 市町村部会でまとめられた研究の成果を各市町村でレポートとしてまとめ、発表の方法を考え全体で交流し、検討する。

## V. 研究体制

### 1. 組織



## 2. 各役員の業務分担

- 部 長 …部会業務全般（渉外業務も含む）  
講師・助言者選定
- 副 部 長 …研究計画立案、全般的研究方法の検討  
実技研修会、理論研修会実施要領の検討  
「石狩の教育」執筆、ホームページ  
講師・助言者選定、依頼
- 研 究 員 …部会研究の具体的方法の検討  
「石狩の教育」執筆
- 教育課程研究委員…石狩管内教育課程の作成  
「石狩の教育」（教育課程関係部分）執筆
- 事 務 局 長 …運営全般  
情報誌発行
- 事務局次長 …一般会計  
諸会議録作成

## VI. 年間計画

月	研修会等（情報誌『石音』は適宜発行）
4月	市町村研究協議会・推進委員研修会①・役員研修会①・ 専門部会第一次研究協議会
5月	推進委員研修会②・役員研修会②
6月	実技研修会（小学校）
7月	実技研修会（中学校）・推進委員研修会③・役員研修会③
8月	
9月	市町村研究協議会
10月	役員研修会④・拡大推進委員研修会④・専門部会第二次研究協議会
11月	役員研修会⑤・推進委員研修会⑤・理論研修会
12月	役員研修会⑥
1月	推進委員研修会⑥・役員研修会⑦
2月	市町村研究協議会
3月	